

書籍紹介

●各書の編集担当者による新刊案内です。

自分を好きになる力

——豊かな発達保障をめざして

近藤直子 著



クリエイツかもがわ
A5判 112頁
本体1200円

子ども自身がこうなりたいたいと思ったときからふくらみはじめる発達の芽を見逃さず、よりよい、花を咲かせよう——。

発達とは「できることの積み上げ」ではなく、「自分がこうなりたいと思っただけで変わっていく」こと。子どもはみんな、自分で変わっていく力をもっているのに、それをうまく発揮できないで困っているのだとしたら、どうしたら主体性を発揮できるかを、まわりが考えていくことが大切なのだと思います。

制度改革のなかで、確実に発展を続ける発達保障の歴史に学びながら、仲間とともに、子どもたちが豊かに育つ生活をつくっていく——ベテラン先生からのそんなやさしくて熱いメッセージ。子どもにかかわるすべての人に元気を届ける一冊です。

アロマザリングの島の子どもたち

——多良間島子別れフィールドノート

根ヶ山光一 著



新曜社
四六判 208頁
本体2200円

アロマザリングとは母親以外による養育のことです。沖縄の離島・多良間島は、伝統的に地域の中で子どもが多くの人に見守られて育つ、まさに「アロマザリングの島」なのです。「子別れ」をキーワードに、親子の反応性や、母親と子どもほどのよい距離について考え続けてきた著者は、島の人々と生活を共にしながら、都会では失われた子育ての原点を随所に発見していきます。

お金さえ払えばサービスを受けられる都会の子育てが、便利さや快適さと引き替えに失ったものは何なのか？ 言葉を交わさず、力を合わせず、そのかわりケンカもせず、ただ淡々と個として生きていてよいのか？ 大人と子どもが「共生」し、モノは乏しくても「困ったときはお互いさま」、と支え合う対人関係の真の豊かさに満ちた多良間の子育ては、深くわたしたちの心を揺さぶります。

赤ちゃん学を学ぶ人のために

小西行郎・遠藤利彦 編



世界思想社
四六判 324頁
本体2400円

赤ちゃんに関する科学的な知見を集約し、赤ちゃんの発達のしくみを解明し、育児や保育の現場に活かす赤ちゃん学。本書は、世界初の、赤ちゃん学への体系的な入門書です。

赤ちゃんは世界をどうみているか(知覚認知)、赤ちゃんのからだや眠りはどう育つのか、赤ちゃんは感情やことばをどう身につけているのか、赤ちゃんにとってどんな室内環境(光・音・色)や保育環境が良いのか、テレビを見せるのは良くないのか……。

こうした問いに答える科学的な知見が、赤ちゃんと接する際のポイントも織り交ぜながら、丁寧にわかりやすく書かれています。本書を読めば、赤ちゃん学の全体像がつかめ、育児や保育や教育に役立ちます。

全一三章に文献案内とQ&A付き。赤ちゃんの写真やイラストを満載した本書を、ぜひ開いてみてください。